

講習No.
U31
選択

「子どものこころ」を育む関わり

講習の開催地

宇治キャンパス

講習の期間

平成26年11月29日(土)

受講料

6,000円

対象職種

教諭、養護教諭

定員	時間数	試験方法	担当講師	柴田 長生(臨床心理学部教育福祉心理学科教授) 堀内 詩子(臨床心理学部教育福祉心理学科助教)
20人	6時間	筆記試験		

主な受講対象者 幼稚園・小学校教諭、養護教諭

講習の概要

子どもは、こころの内側にそれぞれの「生きたイメージ世界」を持ちながら、外の世界を感じ、外在する大人や友人達との関係を形成していきます。教師はそのような子どもの成長を育みますが、教師自身への気づき(自己覚知)が、子どもを育む上で大きく影響します。本講習では、音楽療法や絵画療法の手法を用いながら、「子どもを育む関わり」と「養育者自身への気づき」のうち・そとについて、リレーワークショップ形式で学びます。

1限 9:00~10:20(80分)	2限 10:30~11:50(80分)	3限 12:50~14:10(80分)	4限 14:20~15:40(80分)	5限 15:50~16:30(40分)
育む関わり： 子どもと外とのつながり 外の世界を感じる、人とつながるといふ、それぞれの子どものコミュニケーション特性が、大人や友達とのつながり方に影響を与えます。音楽療法の手法をヒントに「個を見つめること」「二者関係の形を感じていくこと」を通して、保育や学校現場で子どもを見つめていく手がかりを探ります。	育む側の気づき： 教師自身の関与特性に気づく 子どもを育む教師もいるんなコミュニケーション特性を持っており、外の世界を受け止める場合に、それらが様々な形で影響します。集団で絵を描く「回し絵」を実習しながら、教師自身の外界への関与の仕方の特徴に気づきます。	育む関わり： イメージを広げること 子どもにとってイメージの世界はとても大切です。「イメージ遊び」を通して、子どもは内なるイメージ世界の中に豊かに生き、現実世界の表現を容れさせる力を育てていきます。リトミックや音楽療法の中で取り入れられるイメージの世界の大切さを、講義と演習を通して学びます。	育む側の気づき： 大人の中に存在する 子どもイメージ 子どものイメージを受け止めるには、教師側の「子どものセンス」への気づきが大切です。大人のこころの中にも存在する「自らの子ども像」を描くことで、教師自身の「子どものイメージ」の湧出を試み、それへの気づきを通して、実際の子どもの受け止め方を豊かにします。	修了認定試験